

名古屋港管理組合に申し入れ(6月7日)

潜水艦救難艦「ちよだ」が入港 名古屋港の軍事利用にくみしてはならない

海上自衛隊の潜水艦救難艦「ちよだ」が、6月15日・16日に名古屋港に入港、一般公開などが行われます。

日本共産党名古屋市議団は6月7日、名古屋港への自衛艦入港を拒否するよう名古屋港管理組合に申し入れました。

潜水艦救難艦「ちよだ」は昨年3月に就役し、浮上できなくなった潜水艦からの乗員救出がおもな任務です。

申し入れの中で、先月の千葉県銚子沖で発生した貨物船衝突・沈没事故などにも出動していることなども紹介がありましたが、名古屋港を平和な商業港として発展させていくうえで、自衛艦は似合わないことも指摘し、適切な対応を求めました。



6月7日に名港管理組合の前田港営部長に申し入れる江上博之議員。



潜水艦救難艦「ちよだ」
(海上自衛隊HPより)
と救難艇DRSV (右)



潜水艦救難艦「ちよだ」(ASR-404)の要目

就役・母港	2018年3月 横須賀 第2潜水隊群
建造費	508億円
基準排水量	5,600トﾝ 満載排水量7,100トﾝ
主要寸法	長さ128m・幅20m・深さ9.0m・吃水5.1m
主機関	ディーゼル2基2軸
馬力・速力	19,500P S 20kt
装備等	深海救難装置 1式、深海救難艇DRSV 1隻

老朽化した潜水艦救難母艦「ちよだ」の代替艦として建造。ちよだにあった潜水艦への燃料、魚雷、真水などの補給や、潜水艦乗員のための宿泊・休養施設といった母艦機能は省かれている。大規模災害時に、医療支援や被災者の生活支援、入浴支援の拠点としての使用を想定し、手術用寝台2床と病床約10床が設置されている。

名古屋港管理組合
管理者 河村たかし様

2019年6月7日
日本共産党名古屋市議員団
団長 田口一登

潜水艦救難艦「ちよだ」の名古屋港入港に関する申し入れ

海上自衛隊の横須賀を母港とする潜水艦救難艦「ちよだ」が6月15・16両日、名古屋港に入港することが明らかになった。

潜水艦救難艦は潜水艦の軍事作戦をサポートする艦艇であり、2018年6月には、米海軍マーシー級病院船「マーシー」等とともに日米衛生共同訓練を行っている。

今回の入港目的は乗組員の休養・補給、艦艇の見学会とともに、舞鶴音楽隊による演奏会も予定されている。たび重なる軍艦の入港は、市民や港湾労働者の不安をかきたて、名古屋港の軍事利用を既成事実化するものであり、容認できない。名古屋港を商業港として発展させるには、軍事利用を拒否する非核・平和の港としてアジアと世界にアピールすべきである。

管理組合は港湾法13条の、施設の利用に関して「不平

等な取扱をしてはならない」を根拠に、軍艦も拒否できない、としている。しかし港湾法13条は「私企業への不干与等」を規定したものであり、軍艦と商業船舶の港湾利用を同列に論ずべきではない。そもそも戦力の不保持を定めた日本国憲法は軍艦の港湾利用を想定しておらず、1950年に制定された港湾法も同様に解釈すべきである。

よって以下の点を申し入れる。

記

1. 自衛隊艦船の名古屋港入港を拒否すること。
2. ガーデンふ頭を軍艦の一般公開に利用させないこと。隊員募集など乗組員の休養・補給以外の目的での港湾施設の使用を認めないこと。
3. 日本国憲法を厳守し、憲法9条をあらゆる港湾行政に貫き活かすこと。